

ゴルフ場セミナー12月号

ニューベントの品種間差

意外と大きい特性の違い

- ①ピュアディステインクシヨン
- ②007
- ③メモリアル
- ④バラクーダ
- ⑤V8
- ⑥ピュアセレクト

最新6種類の比較試験



株式会社 環緑
TEL03-3381-1020

「いくら耐暑性を改善したからといっても、ベントグラスはベントグラス。寒地型芝草には向上の限界がある」という意見がある。確かに、ベントに耐暑性等の制約があることは否めない。しかし、合成品種第1号のベンクロスと、その後現れたチバグリーンB・1では、確実に後者の方が耐暑性は優位であった。そして、昨今のニューベントはさらに向上していると言われる。だが、日本国内では、これらニューベント間の品種間差を見ても、本グリーン並の管理を行っているテスト圃場はこれまでなかった。が、今年になって、ようやくその機会が訪れた。千葉県にある泉カントリー倶楽部（印西市・27日）でニューベント6品種をテストに用いた圃場を整備したのだ。

6品種3反復のテスト圃場を造成

泉CCと聞けば、コース管理関係者ならば、「ああ、寺町キーパーのころか」と、思い浮かぶことだろう。だが、今の寺町章氏は同CCの代表取締役支配人。その彼が、テスト圃場を造成した理由は、以下である。

1mの長方形。2.5mとしたのは、ステインプメーターでグリーンズピッドを計測する際に、8フィート（2.4m）をクリアするからだそうだ。これを品種ごとに3反復用意した。全部で18区画になる。

播種は昨年10月18日で、ピュアセレクトのみが若干遅れて29日となった。圃場床はピュアサンド。ここに生種子5g/m²、コーティング種子の場合は10g/m²をヤシガラ活性炭を増量材として加え、混合した後播種し、ベンネットでカバーし、灌水するなど養生を行った。

梅雨明け前から芽数の少ない品種も

最初にテスト圃場を見したのは、7月18日だった。関東地方の梅雨明けは7月21日頃とのことだから、その3日前に訪れたことになる。最寄りの気象観測所のデータによると、7月中旬は平均気温25・5℃、降雨量は55・0mm。気温は平年値を1℃上回り、猛暑の到来を予感させた。そしてテスト圃場を遠観すると、早くも生育に差が生じていた。ここで、確認して欲しいことがある。それは、このニューベントのテ

ニューベントの品種間差 意外と大きい 特性の違い



写真1 1区画のテスト圃場。全部で18区画に6品種を栽培

かつてはベンクロスしかなかったから、ベント品種を選択する余地はなかった。だが、現在は、多種類のベント品種が上市されている。採用にあたっては、その特性を十分に把握することが必要だ。

「これまでグリーンにニューベントをインテグレートして成果を上げましたが、今後も継続してグリーンのカオリティアップを図るため、この泉CCの環境にマッチしたベント品種の特性を調査するために造成しました」（寺町氏）

寺町氏は現在、千葉県コース管理者会会長であり、その関係もあって、千葉県農林総合研究センター主席研究員の加藤正広氏がコーディネーターを務め、また試験担当者として㈱ニチノ一緑化の鬼原久和氏も参加している。圃場管理は、泉CCの中村光三グリーンキーパーだ。

テストに供試したニューベントは、007、メモリアル、V8、バラク1ダ、ピュアデイスティンクシオン、ピュアセレクトの6品種。どうやら売れ筋の007が対象品種の役割を果たしているようだ。このなかのピュアデイスティンクシオン、ピュアセレクトの名前は初めて聞いた読者がいるかもしれない。これは、ベンクロスの開発者で昨年8月に亡くなった、ペンシルバニア州立大学名誉教授・ジョゼフ・デューイッチ博士の遺作となった作出品種である。テスト圃場は、1区画2.5m×

ストは、泉CCという立地と気象等の生育環境、そして管理条件下で実施されている点だ。つまり、ここで品種間差が生じたとしても、他の条件下では違った結果となることは十分に考えられる。故に、いらざる誤解を防ぐために筆者の遠観結果は、品種名を明示せず、仮の品種番号で示すこととする（もちろん、先に記した品種の順ではない）。

本格的な夏を目前に葉の細かさや均一性に差はあるものの、極端な落ち込みは感じられず、テスト圃場は全体として、きれいな印象だった。ただ、何故か1品種だけ芽数の少なさが気になった。この段階で、6品種の優良順位を付けると、①③⑥②④⑤となっていた。⑤は芽数の少なさが気になった品種である。①③⑥はいたって「良好」な感じだった。

写真1はその時点でのテスト圃場。遠景からでも、品種間差が感じられる。写真手前部分のターフに粗さが目立つが、これは灌水不足の影響という。写真2は、右側が緻密なターフを形成しているが、左は粗く芽数の差がはっきりと分かる。写真3は、左側が粗さの目立った品種⑤で右が品種⑥。

2回目に訪れたのは、9月5日。当初は「8月一杯は暑いだろうから、まだ回復しないうちに観察しよう」と考えていたのだが、8月下旬の平均気温は24・1℃と平年値を1・3℃下回る結果となってしまった。だが、8月中旬にブラウンパッチが発生

したこともあってか、全体的に芽数が減った印象を受けた。そして、前回気になった品種⑤は病害の発生も影響してか全体に生育が悪く、アルガエが発生して、粗い芝草から黒い下地が透けていた。

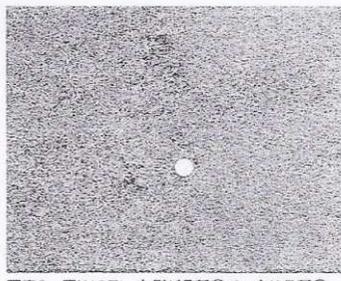


写真3 同じ18日。左側が品種⑤で、右は品種⑥。ここでも、品種⑤の粗さが目立つ

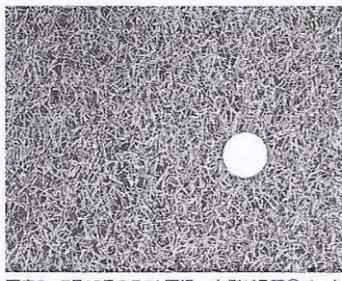


写真2 7月18日のテスト圃場。右側が品種①で、左が品種⑥で、芽数が少なさが気になる

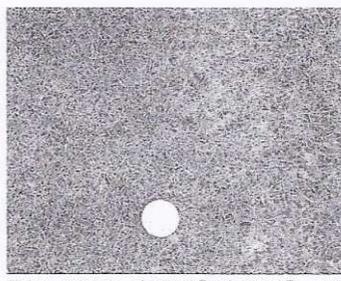


写真5 同じ5日。左が品種⑥で右が品種③。写真4と同じ傾向が読みとれる

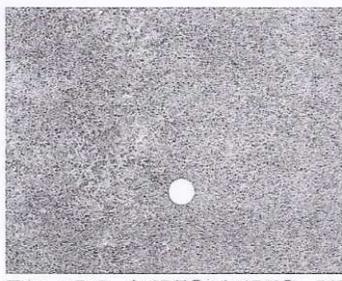


写真4 9月5日。左が品種⑤で右が品種①。品種⑤は芽数が減りアルガエが発生して黒かった

①⑥②③④⑤となった。品種②と品種③は、3位タイであった。中村キパーによると、「ブラウンパッチ耐性については大きな差はなかった」とのこと。

3回目の達観は、10月17日。気象条件を見ると、8月の平均気温が26・4℃と0・5℃平年値を上回ったものの、9月は逆に21・1℃と平年値を1・1℃下回る結果となった。ペントには好条件となったことで、全体にターフクオリティは回復していた。写真6は、上が1回目、2回目とも達観で成績のよかった品種①で、下が同じく不良だった品種⑤だが、気候条件の好転で著しく回復してきていた。密度には若干の差はあるが、葉の細かさは似たような感じである。

写真7は、品種①（右）と品種⑤（左）で、その境界線は500円玉のすぐ左側にあるが、良好な生育状態を示してきた品種①が、回復してきた品種⑤のスペースに食い込んできている。品種①と⑤の匍匐力の差の結果なのか、品種⑤との境界部に耐暑性がより優れている品種①が侵食してきた結果なのだろう。同じ傾向を示したのが写真8である。品

種①が品種③エリアに進出している。両者ともターフの状態は良好だが、品種①の方が葉も細かいことが分かる。全体的にこれらの結果を見ると、品種①の成績はなかなかのものといえよう。

その一方で、これまで品種①に次いで良好な結果を残してきた品種⑥だが、区画によってはいま1つのところがある。写真9は、品種⑥の生育不良である。

3回目の達観結果は、上位から①⑥③⑤④②の順となった（品種④と品種②は5位タイ）。1回目、2回目で最下位となった品種⑤は4位に上昇している。

6品種のなかで 2品種の成績が良好

これら筆者自身の観察に、テスト圃場関係者の見解を含めると、以下のようなことが言えそうだ。

「ニューペントグラスの品種間差は意外と大きい。3回にわたった達観ではあまりよい成績が出なかった品種でも、初期生育に関しては良好であったり、あるいは成績が悪くても、気温の低下とともにクオリティが回復してきたりする。つまり、各ゴル

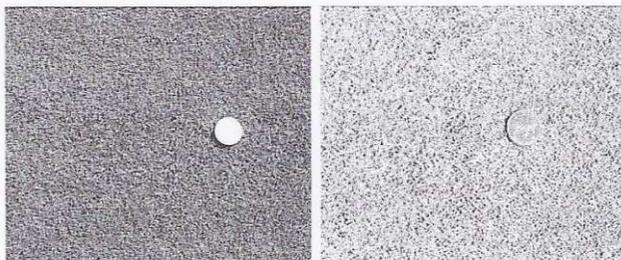


写真6 10月17日。500円玉の上が品種①で、下が品種⑤。よく見なければ、上下の差がなくなっている
 写真7 同じく17日。右が品種①で左が品種⑤。500円玉のすぐ左が区画の境界線がなくなっている

フ場が集客の季節的変動を加味し、その微気象、さらに維持管理を客観的に判断して、どのペント品種のどの時期の、どの特性に着目して採用を決めるのが肝要。今回はグリーン管理の容易さの程度は分からなかったが、これも大事な要因に違いない。そのためには、安易な導入を図るのではなく、事前の慎重な調査やテスト圃場等での確認を得たい」

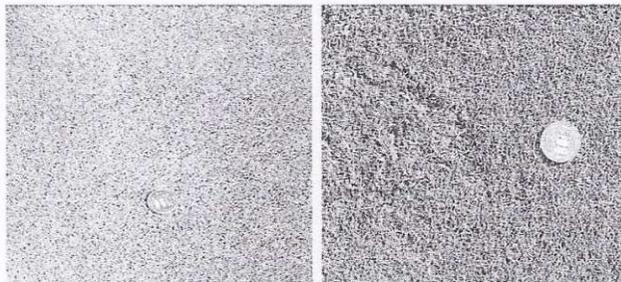


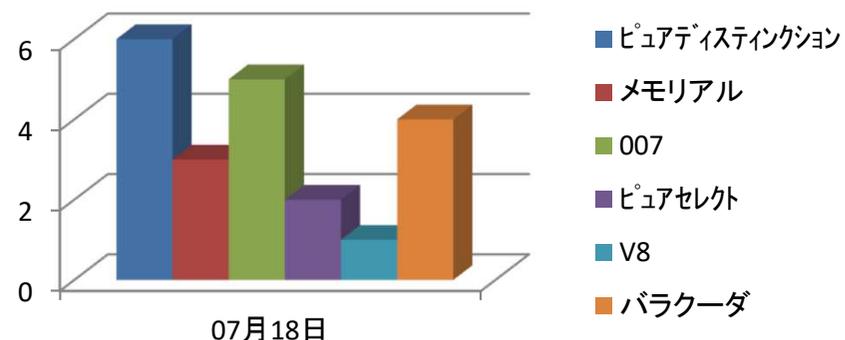
写真8 同じく17日。左が品種①で右が品種③。写真7と同じ品種①の繁殖が旺盛
 写真9 1回目、2回目とも良好な成績を残した品種⑥だが、区画によってはヘアが生じた

10月の末になると、ペントの生育は絶好調で、6品種間には大きな差は見られなくなっている。だが、筆者が7月から10月中旬にかけて、取材時期ごとの達観品種間差が相当程度あったことはまぎれもない事実である。「うちの圃場では、頭1つ飛び出た品種が2つありました」と、中村キパーは語っている。

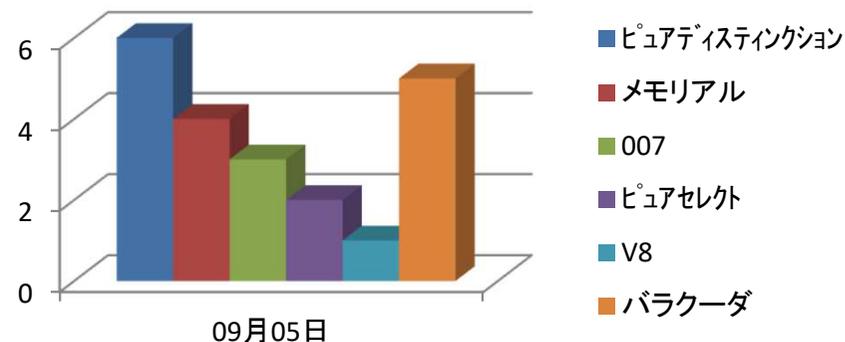
品種間格差 評価順位

数字が大きいほど良好

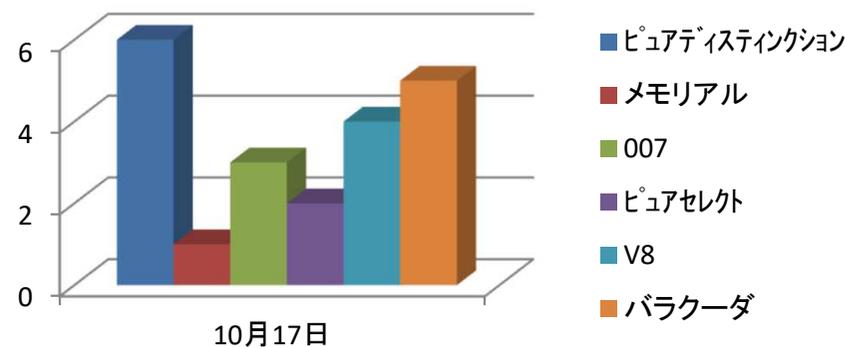
No.	品種名	7月18日
①	ピュアディスティンクション	6
②	メモリアル	3
③	007	5
④	ピュアセレクト	2
⑤	V8	1
⑥	バラクーダ	4



No.	品種名	9月5日
①	ピュアディスティンクション	6
②	メモリアル	4
③	007	3
④	ピュアセレクト	2
⑤	V8	1
⑥	バラクーダ	5



No.	品種名	10月17日
①	ピュアディスティンクション	6
②	メモリアル	1
③	007	3
④	ピュアセレクト	2
⑤	V8	4
⑥	バラクーダ	5



ピュアディステーション PST-0JO	PST-OJD(10/29)	007	メモリアル	V8	バラクーダ
V8	バラクーダ	ピュアディステーション PST-0JO	PST-OJD(10/29)	007	メモリアル
007	メモリアル	V8	バラクーダ	ピュアディステーション PST-0JO	PST-OJD(10/29)



ピュアディステーション PST-0JO	PST- OJD(10/29)	007	メモリアル	V8	バラクーダ
V8	バラクーダ	ピュアディステーション PST-0JO	PST- OJD(10/29)	007	メモリアル
007	メモリアル	V8	バラクーダ	ピュアディステーション PST-0JO	PST- OJD(10/29)

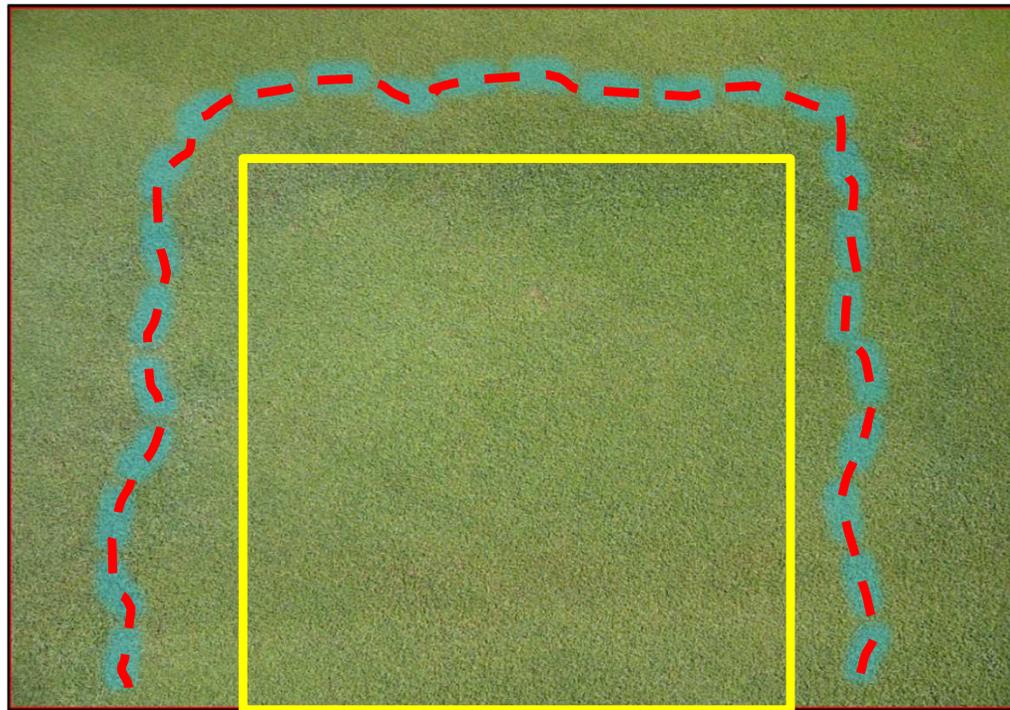


2. PURE DISTINCTIONの特性

特徴

- 市販品種中 一番の細葉
- 市販品種中 一番の耐暑性
- 市販品種中 一番の高密度
- アップライトな生育特性ながら横方向の生育も非常に旺盛
- 肥料 水の要求度が少ない
- サッチが少ない
- 通年の明るい緑色
- 細菌病などに高い耐性

周囲のベントグラスより匍匐能力が高い PURE DISTINCTION



2012年9月播種ライン



2013年9月生育ライン



周囲の他品種を侵食する旺盛な生育状況